

# SPEEDI情報提供

## 730km圏内

### 防災対策の強化で

文科科学省は三日より、原子力発電所から三十km圏内に入る七府県に対し、SPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム)による情報提供を開始した。福島事故に伴い、原子力安全委員会の防災対策重点化の考え方を踏まえ、これまでSPEEDI I端末による情報配信が行われていなかった自治体にも提供される。去る十一月、安全委員会の専門部会で、緊急時防護措置を準備する区域(UPE)として、施設から「概ね三十km圏内」とする防災対策区域

とされた。こうした国による防災対策強化の動きをとらえ、各自自治体では、県民フォーラムの開催など、原子力災害に対する住民広聴の取組が始まっている。

### 再編でインフラ事業など強化

日立製作所は四月一日付で、「情報・通信システムグループ」「インフラシステムグループ」「電力

を兼ね備えた技術専門家の育成が重要である」として、最後に、尾本彰・東京

二国間協定へ向け交渉開始

原子力発電所事故後の対応推進に関する協力協定締結に向けた日本・ウクライナ両政府間による第一回目の交渉が、このほどウクライナ・キエフで行われた。

### 技術能力持つ規制プロを

社会技術研究会 専門分化の弊害懸念

社会技術研究会は一月二十八日、第八回社会技術研究会シンポジウム「福島第一原子力発電所事故と社会技術」を東京大学で開催

また、研究発表セッションも行われ、山口陽彦・発電設備技術検査協会理事長、城山英明・東京大学教授、柘植綾夫・芝浦工業大学学長、日本工学会会長が、パネルディスカッションを行った。

二国間協定へ向け交渉開始

原子力発電所事故後の対応推進に関する協力協定締結に向けた日本・ウクライナ両政府間による第一回目の交渉が、このほどウクライナ・キエフで行われた。

### 電源ユニットの運用開始

#### 女川発電所 海拔52mの高台に

東北電力の女川原子力発電所は三日、大規模な津波が襲来した際にも、原子炉の冷却機能を確保する大容量電源装置(定

格出力四千kW×三台)の運用を開始した。

福島事故を踏まえた緊急安全対策の中長期的取組の一環として、一

福島第一原子力発電所事故対応要員(自衛隊員、作業員)の線量評価、除染などの緊急被ばく医療(二〇一一年末までに二百五十名以上の職員を福島県

内閣官房等へ派遣③スクリーニングや医療機関等のホールボディカウン

また、福島第一原子力発電所事故において、①福島第一発電所事故対応要員(自衛隊員、作業員)の線量評価、除染などの緊急被ばく医療②二〇一一年末までに二百五十名以上の職員を福島県



エンジン発電機ユニット

同社では、女川発電所の緊急安全対策として、津波により、全交流電源、海水冷却機能、使用済み燃料プール冷却機能の三つを喪失した場合にも、

炉心損傷および使用済み燃料の損傷を防止し、放射性物質の放出を抑制しつつ、原子炉の冷却機能の回復を図るため、高圧電源車配備などの短期的対策と合わせて、安全性向上のための中長期的取組を進めてきた。

今回、運用を開始した大容量電源装置は、大地震・津波で全交流電源喪失が生じた場合、原子炉の冷温停止に必要な除熱機能を有する設備などへ電源を供給する。

この他、女川発電所では、十五m級の津波を想定した防潮堤の建設なども進められている。

また、福島第一原子力発電所事故において、①福島第一発電所事故対応要員(自衛隊員、作業員)の線量評価、除染などの緊急被ばく医療②二〇一一年末までに二百五十名以上の職員を福島県



片田敏孝・群馬大学大学院社会環境デザイン工学専攻災害社会学研究

田中知・東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻教授は、「東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえた原子力教育研究の再考」の基調講演で、専門・俯瞰的工学知と高度な社会リテラシー

また、研究発表セッションも行われ、山口陽彦・発電設備技術検査協会理事長、城山英明・東京大学教授、柘植綾夫・芝浦工業大学学長、日本工学会会長が、パネル

また、研究発表セッションも行われ、山口陽彦・発電設備技術検査協会理事長、城山英明・東京大学教授、柘植綾夫・芝浦工業大学学長、日本工学会会長が、パネル

## 原産新聞の記事検索

<http://www.jaif.or.jp/>

原産協会が発行する「原子力産業新聞」では、10年間の記事データベースから即座に目的の記事を検索できるサービスを、原産協会会員、原産新聞購読者を対象に行っています。何回利用しても無料です。

また、一般の方にも2002年4月からさかのぼって1955年9月25日の創刊号までは、紙面のPDF版が当協会HP「電子図書館」からご覧いただけます。PDF版のキーワード検索も年度単位でご利用いただけるようになりました。

対象：原産会員、原産新聞購読者  
ご利用にはユーザー名(ID)、パスワードが必要です。  
電子メールで購読者コード、組織名、部署名、お名前、ご連絡先電話番号を明記してお申し込みください。折り返し、IDとパスワードを返送します。

お申込み： [information@jaif.or.jp](mailto:information@jaif.or.jp)  
お問合せ：(社)日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部 (TEL03-6812-7103)

【著作権】(社)日本原子力産業協会

## 「原産新聞ヘッドラインニュース」

無料メールマガジン

原子力産業新聞は、最新号の見出しと要約を、毎週月曜日までに電子メールを使って配信する無料メールマガジン「原子力産業新聞ヘッドラインニュース」のサービスを行っています。

メールマガジンの配信をご希望の方は、電子メールまたはFAXで、電子メールアドレス、組織名、部署名、お名前、ご連絡先電話番号を明記してお申し込みください。

お申込み先 [shinbun@jaif.or.jp](mailto:shinbun@jaif.or.jp)

こちらからも直接お申込みいただけます。

○原産ホームページ (<http://www.jaif.or.jp/>)  
○まぐまぐ (<http://www.mag2.com/>)

(社)日本原子力産業協会 情報・コミュニケーション部 (TEL03-6812-7103、FAX03-6812-7110)